



「実践する社会教育委員」として、様々な活動に取り組みました。

平成 22 年度第 1 回社会教育委員会議（定例会）において協議された内容のうち、「実践する社会教育委員」として、「イベント等への参加」「我がまちのいいところ 10 選の選定」などの活動に取り組みました。

「イベント等への参加」

「まずは現場から」を合言葉に、各委員が現場へ足を運び、「意義」や「問題点」などを拾い上げ、レポートとしてまとめます。これを会議で発表し、委員全員で共有し、更に現場へフィードバックする取組みです。

今年度は、主に生涯学習課が所管するイベントの中から社会教育委員が参加を希望するイベントを選定し、それぞれに参加しました。11 月末までに 23 のイベントに参加、それぞれ

報告されたイベント

- ・ 夏休みおいで塾（各公民館）
- ・ 夏季休業特別街頭補導
- ・ こども体験教室（東春近公民館）
- ・ 西箕輪通学合宿
- ・ おはなしのひろば
- ・ まほらいな市民大学
- ・ 大人のためのおはなし会
- ・ 成人式（各地区）
- ・ 戸台の化石学習会
- ・ 地区運動会（美篤、三義）
- ・ 美篤子ども寄席
- ・ 地域ぐるみで子供を育てるフォーラム
など

イベントに対する感想、良かった点、問題点・課題などをレポートにまとめました。また、このレポートをイベント実施機関に伝達し、次回以降の計画立案に活かしてもらうこととしました。

「我がまちのいいところ10選」

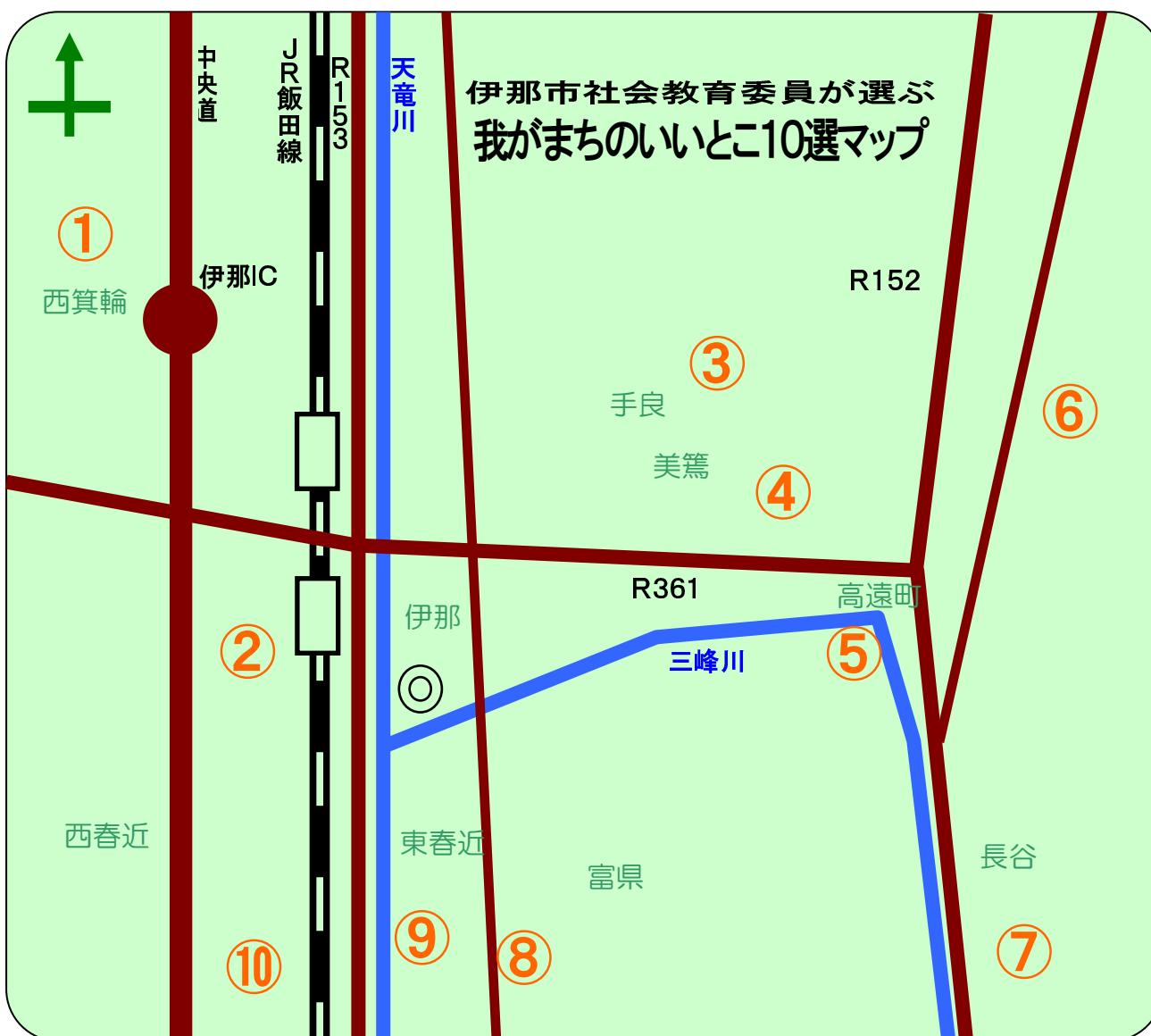
委員自らがお互いの地域の成り立ちや特色を知ることを目的に、紹介したいと考える地域の自然、歴史、文化などに関するアピールポイントを選定し、報告していただきました。この報告を基に、視察研修を実施しました。

8月30日の第2回会議で「②伊那部宿、⑥遠照寺、⑨清水川棚川公園」の視察研修を行い

ました。「伊那部宿」では、兼子会長の案内で「旧井澤家住宅」を見学、伊那市文化財審議委員の久保村先生から伊那部宿の歴史について



旧井澤家住宅で、久保村先生から講義を受ける





北原委員が国重文「冪宝塔」の説明を行う

講義を受けました。「遠照寺」では、釈迦堂の中で地元の北原委員自らが「冪宝塔」の由来などについて説明を行いました。「清水川棚川公園」では、地元の林委員が地区住民の取組みに



林委員が地元住民の活動について説明を行う

ついて説明を行いました。この研修では、お互いの選出地区の「いいところ」を共に学び情報共有することができました。今後も会議の中で、視察研修を実施していく予定です。

伊那市社会教育委員がおすすめする

「いいところ10選」のみどころ

①仲仙寺本堂・内陣の四天王（西箕輪羽広）

17世紀後半建立の本堂、四天王の2体は鎌倉時代の作といわれている。

②伊那部宿（西町）

今も残る宿場町の面影、脇道として使われた問屋道、代表住宅は「旧井澤家住宅」

③清水庵（手良中坪）

秘仏の十一面十手観音菩薩は、京都清水寺の本尊と同じ木から彫刻されたといわれている。

④六道の堤（美篤末広）

高遠野笹地区から引水し、六道原に至る約10キロメートルの井筋。

⑤竹内徹美術館（高遠町小原）

ふるさとの原風景を描いてきた竹内徹氏の作品が鑑賞できる。

⑥遠照寺釈迦堂（高遠町山室）

16世紀建立の釈迦堂の中にある「冪宝塔」は、国重要文化財で県下では最古。

⑦熱田神社（長谷溝口）

日光東照宮の流れをくむ特殊な建築手法などから「伊那日光」と呼ばれている。

⑧根木谷観音堂（富県南福地）

天井に136枚の絵、教育者「内田文昂」のものといわれている。

⑨清水川棚川公園（東春近下殿島・田原）

地域住民が力を合わせ環境整備し、5種類の桜を植樹した。蛍の乱舞も見ることができる。

⑩諏訪神社御柱祭と騎馬行列（西春近諏訪形）

諏訪の御柱と同じ7年ごとの御柱祭で、これに併せた騎馬行列が奉納される。

伊那市における今後の生涯学習のあり方について（提言）

昨年度から、社会教育委員会議において、伊那市における生涯学習のあり方検討を進めてきました。以下の16項目にわたる事項を提言としてまとめ、7月30日に教育委員と社会教育委員による懇談会を開催し、話し合いを行いました。

I. 基本理念

- ①行政主導型の生涯学習は限界にきており、市民との協働、NPO・ボランティアの活用、民間事業者との連携などにより、市民が中心的役割を果たすような「市民が主役」の学習活動を進めていく必要があること。
- ②気軽に学べる環境づくりと指導者の養成により、学習の成果が生かされる社会の仕組みを構築していく必要があること。
- ③個人、地域社会、行政の役割を明確化し、それぞれの立場において生涯学習の意義と必要性を広く訴えていく必要があること。
- ④大人が子どもに自信をもって生き方を示し、それをまた次の世代へと継承できるよう、人と人とのつながりを再生し、家庭や地域の教育力向上を図る必要があること。
- ⑤個人からグループ、さらには地域社会へと発展するようつながりと広がりを持った事業の展開（点～線～面への取組み）を図る必要があること。

II. 公民館活動

- ⑥生涯学習の母体として公民館の存在は大きく、公民館活動における実践活動や相互交流、情報交換などを通じて、道徳心や人格ある人間形成を図っていく必要があること。
- ⑦講座やイベントがマンネリ化し、参加者の顔ぶれが限られる傾向が見受けられる中で、地域の枠を超え、異世代の人たちが集い、自ら企画に加わることができるような運営形態を整備する必要があること。
- ⑧地域自治会への加入率が低下し、社会共生意識が希薄になる中で、今まで公民館活動の中心に据えてきた個人対象の学習に加え、今後は社会参加を主眼とした実践活動へと講座内容をシフトしていく必要があること。
- ⑨自らが学習した成果を人や地域に生かし、それを享受した人たちが再びその知識や技術を教え伝える循環型の学習体系を構築していく必要があること。
- ⑩男性の活動参加が少ないため、団塊の世代を対象として、地域を知ってもらい仕事に代わる生きがいを見つけてもらえるような実践活動を検討する必要があること。
- ⑪市町村合併による行政規模の拡大や市外からの集客に対応するため、「もてなしの心」を養成するとともに、質の高いサービスの提供が図られるよう、人材の育成を進める必要があること。
- ⑫地域資源や歴史、文化・伝統に関わる見識を深め、地域振興に貢献できる能力・資質の向上を図る必要があること。

III. 青少年教育

- ⑬情報化社会の進展に伴い、インターネットや携帯電話などのメディアづけになる子どもが増加していることから、本の読み聞かせなど「読育」の取組みを通じ、生活リズムの安定と社会規範の養成を図る必要があること。
- ⑭友だちの輪に入ることができなかつたり、すぐにキレるといった子供たちの様子は、親のしつけの悪さが根底にあり、核家族化によりお年寄りと一緒に暮らす子どもが少ない状況の中で、親に対する教育と親子のコミュニケーションの確保を図る必要があること。
- ⑮PTAや子ども会・育成会、ボランティアなどが連携して活動できる体制を整備し、青少年を取り巻くより良い教育環境づくりを進めていく必要があること。
- ⑯子どもへの接し方として、単に悪いところを注意するばかりではなく、良いところを褒め伸ばしていくことが大切であること。

伊那市社会教育委員だより

編集・発行 伊那市教育委員会生涯学習課 〒396-8617 伊那市新田 3050 番地

電話：0265-78-4111（内線 2723） F A X：0265-72-4142

Eメール：sgs@inacity.jp

お問い合わせなどはこちらまで

